



Traces of Genius: Celebrating the 160th Anniversary of Takeuchi Seiho's Birth



# 生誕一六〇年 竹内栖鳳 天才の軌跡

二〇二四年  
三月十六日(土)～五月十二日(日)



休館日 毎週月曜日  
\*ただし祝日の四月二十九日(月)、五月六日(月)は開館、翌四月三十日(火)、五月七日(火)を休館とする  
開館時間 午前十時～午後五時 \*ただし入館は午後四時三十分まで  
主催 海の見える杜美術館 後援 広島県教育委員会、廿日市市教育委員会  
入館料 一般二〇〇円、高大生五〇〇円、中学生以下無料  
\*一〇名以上の団体は各二〇〇円引き  
\*障がい者手帳などをお持ちの方は半額、介添えの方は名無料  
「タクシー乗館特典」タクシーで、来館の方は、タクシー一台につき、一名入館無料  
\*当館入館の際にタクシー領収書を受付に、提示ください。  
図版上「風濤」一九一八年(天正七) 下「観花」(部分)一九一八年(明治三二) 頃 いずれも海の見える杜美術館蔵

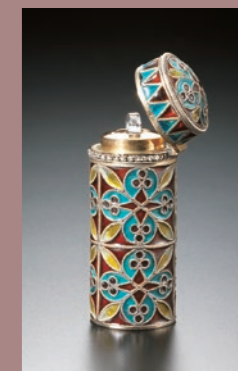
海の見える杜美術館  
learn from nature and pursue art & culture

## 【同時開催常設展】香水瓶展示室

長年にわたり収集および調査をしてまいりました当館の香水瓶コレクションから、各時代を代表する香水瓶をいつでもご覧いただけます。



《開口の儀式セット》  
エジプト 古王国時代



◆初公開  
ブシュロン社(香水瓶)  
フランス 1890-1900年

## イベント情報

### 記念講演会

日時: 2024年5月4日(土・祝) 午後1時30分～(開場: 午後1時)  
会場: はつかいち文化ホール ウッドワンさくらびあ小ホール  
(広島県廿日市市下平良1-11-1)

講師: 廣田 孝 (京都女子大学名誉教授)

講演内容: 「京都における竹内栖鳳の明治20～40年代の活動」

参加費: 無料

### ◆特別鑑賞会のお知らせ

講演会の終わりは午後3時30分を予定しております。  
その後、展覧会観覧ご希望の方に、特別鑑賞会を行います。  
講演会会場から海の見える杜美術館へのバス(帰りの便午後6時頃  
広電廿日市市役所前着)をご用意いたします。参加を希望される方は、  
講演会お申込みの際に参加希望の旨をご記入ください。

申し込み方法: 往復ハガキまたはメールにてお申し込みください。

「栖鳳展講演会参加希望」(メールの場合件名として)とご記入の上、

①参加人数、②参加希望者全員の氏名、③代表者の住所、

④代表者の電話番号、⑤特別鑑賞会に参加ご希望の方はその旨を

明記し、4月25日(木)までにお申し込みください。

返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。

当館より折り返しご連絡いたします。

なお、定員に達ししたい締切とさせていただきます。

ハガキ宛先: 〒739-0481 広島県廿日市市大野亀ヶ岡10701

海の見える杜美術館 栖鳳展講演会係宛

メール宛先: info@umam.jp

問い合わせ先: 海の見える杜美術館 Tel.0829-56-3221

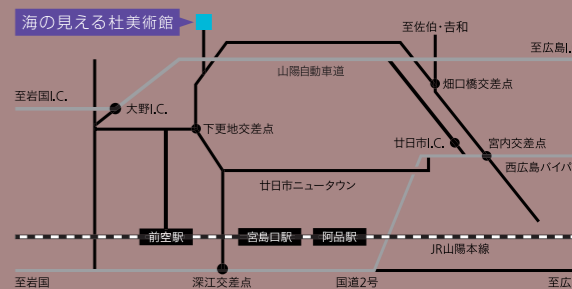
## 当館学芸員によるギャラリートーク

日時: 2024年3月30日(土)、4月13日(土)、5月11日(土)

各日午後1時30分～

会場: 海の見える杜美術館 展示室

参加費: 無料(ただし、入館料が必要です) \*事前申し込み不要



アクセス情報: 山陽本線「阿品駅」または広島電鉄「広電阿品駅」  
からタクシーで約13分/山陽自動車道「大野I.C.」から車で約10分

海の見える杜美術館  
learn from nature and pursue art & culture  
〒739-0481 広島県廿日市市大野亀ヶ岡10701 Tel: 0829-56-3221  
E-mail: info@umam.jp https://www.umam.jp

〈臥虎〉部分 一九一七年「昭和二」海の見える杜美術館蔵

# 竹内栖鳳

生誕 一八六四年

## 天才の軌跡

竹内栖鳳は一八六四年(元治元)、京都生まれ、明治から大正、昭和にかけて京都の日本画界に多大な影響を及ぼした画家です。あらゆる流派の伝統的な画技を学ぶと同時に、それらに縛られることなく、時代に即した日本画を模索し続けました。西洋絵画にも学び、一九〇〇年(明治三三)に渡欧、自分の眼で見た西洋の風景や動物をまるで眼前に迫るかのような迫真性をもって画面に描き出し、それらは当時の日本画に新しい風を送り込みます。徹底的な写生を基底としつつ、その卓越した筆技であらゆるものを活写しました。

栖鳳の生誕一六〇周年にあたる二〇二四年、栖鳳の若い頃から晩年までの、初公開作品を含む優品の数々に加え、当館が開館以来収集・整理してきた栖鳳に関係する資料と合わせ、天才画家・栖鳳の歩んだ軌跡を辿ります。他の画家との合作や書簡などに見られる交友関係、絵を描く際に栖鳳が参考にした写真や粉本、下絵から読み取れる制作過程など、今まであまり語られてこなかった栖鳳の画業の側面をもご覧いただき、新たな栖鳳の魅力を発見していただければ幸いです。

**第一章 近代京都画壇の夜明けとともに**——京都の料亭の子として生まれ、反対を押し切って絵の道へ。「鶴派」と言われ模索を続けた「棲鳳」時代。  
**第二章 海を越えて見えたもの**——一九〇〇年(明治三三)、視察のために渡欧、画号を「栖鳳」に改めます。初めて海を越え、西洋文化に本格的に触れ、栖鳳の芸術も大きな変化を迎えます。  
**第三章 画壇の中核へ**——一九〇七年(明治四〇)、文部省美術展覧会(通称文展)が始まり、いよいよ「日本画」の枠組みの中で画家たちが競い合う時代に。京都画壇をリードする存在として、描くべき絵画を探求します。  
**第四章 日本画の変革期の中で**——大正期、自分の後進たちが全く新しい表現を生み出していた頃、栖鳳は日本画の根源を求め中国を旅し、その筆技はさらに冴えを見せます。  
**第五章 自由なる境地へ**——壮年期、栖鳳は何げない身近な生き物や、人が目に留めないような景色に画題を見出し、見事に芸術に昇華させます。生涯をかけて磨いてきた、卓越した画技あってこそこの絵画です。  
**第六章 栖鳳余録**——常に京都画壇の中心であり続けた天才画家・栖鳳には、逸話が数多く残っています。制作にまつわるエピソードや、画家や家族との関わりを物語る作品・資料をご覧ください。



**18歳** 若き「棲鳳」のあまりにも早熟な観察眼と筆技  
 《海》一八八二年(明治一五) 海の見える杜美術館蔵

**32歳** 襖の中の遙かなる世界  
 《秋冬村家図》(部分)一八九六年(明治二九) 海の見える杜美術館蔵



**34歳頃** 異色の作品、踊る骸骨  
 《観花》一八九八年(明治三一)頃 海の見える杜美術館蔵



**37歳** 栖鳳が発表した唯一の油絵作品  
 《エズ景色》一九〇一年(明治三四) 海の見える杜美術館蔵



展示期間:3月16日(土)～4月14日(日)

**39歳** 渡欧の成果、圧巻のローマ遺跡  
 《羅馬之図》一九〇三年(明治三六) 海の見える杜美術館蔵



展示期間:3月16日(土)～4月14日(日)

**41歳頃** とある人物のために ◆初公開  
 《悲秋》一九〇五年(明治三八)頃 海の見える杜美術館蔵



**49歳** 数少ない栖鳳の人物画 ◆重要文化財  
 《絵になる最初》一九一三年(大正二) 京都市美術館蔵



展示期間:5月1日(水)～5月12日(日)

**63歳** 動物を描けばそのにおいまでも描く  
 《小春》一九二七年(昭和二) 海の見える杜美術館蔵



**76歳** 動と静の対比、老境で見せた新境地  
 《雄風》一九四〇年(昭和一五) 京都市美術館蔵



◆画家のエピソードを物語る作品・資料も多数公開。  
 娘のために腕をふるった打掛  
 《打掛》一九一九年(大正八) 海の見える杜美術館蔵



長女・園の婚礼に際し、五十五歳の栖鳳が絵を手描きした打掛。栖鳳は多芸であり、絵画作品以外にも、本作品のような衣装や絵付けした陶器類などが残っている。それらからは栖鳳の交友関係や人情味ある一面が垣間見られ興味深い。

展示期間:4月16日(火)～5月12日(日)

展示期間:3月16日(土)～4月14日(日)

展示期間:3月16日(土)～4月14日(日)